

事業実績報告書

■開催情報

- 事業名：「海老原美術研究所設立 70 周年記念 エビハラがいた時代」
主催：熊本県立美術館／熊本県教育委員会、熊本日新聞社、RKK 熊本放送
特別協賛：肥後銀行、KM バイオロジクス
協賛：金剛グループ
助成：公益財団法人 花王芸術・科学財団、独立行政法人 日本芸術文化振興会、一般財団法人 熊本放送文化振興財団
協力：有限会社 黒亭、九州旅客鉄道株式会社九州支社
後援：熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、熊本県市町村教育委員会連絡協議会、熊本県図画工作・美術教育研究会、熊本県高等学校教育研究会美術・工芸部会、熊本県高等学校文化連盟、熊本県博物館連絡協議会、NHK 熊本放送局、J：COM、エフエム熊本、FM791
会期：令和 4 年（2022 年）2 月 25 日（金）～3 月 30 日（水）／30 日間
会場：熊本県立美術館本館 第 1 展示室
観覧料：一般 1,100 円（900 円）／大学生 900 円（800 円）
※（ ）は前売・20 名以上の団体料金

■展示内容

戦後熊本の美術を牽引した鹿児島出身の画家・海老原喜之助（1904～1970）の軌跡をたどる展覧会として、彼の代表作を軸に、関連作家、教え子たちの作品、さらに当時の新聞記事や映像、音声などにより展示を構成した。展覧会の構成は以下のとおりである。

- ・序章 エビハラという、画家。
- ・第 1 章 画家が、くる。 1945－1955
- ・第 2 章 画家が、いる。 1954－1960
- ・第 3 章 画家が、ゆく。 1960－1970
- ・終章 エビハラが、いた。 1970－1976

開催に当たっては、肥後銀行と KM バイオロジクスから特別協賛を頂き、また金剛グループから協賛を頂いた。さらに貴財団に加え、花王芸術・科学財団、日本芸術文化振興会から助成を受けた。作品・資料の借用先は、新潟から鹿児島までの計 32 ヲ所。展示室には当館の所蔵品を含め、計 161 件を展示した。出品リストについては別紙 4 を参照されたい。

■関連イベント

新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあったため、参加者を限定して開催した。なお、まん延防止重点措置適用及び期間延長に伴い、開催を中止したイベントもあるため、該当するものについてはその旨記載している。

1) 障がいのある方々のための鑑賞デー

開催中止（当初は2月28日（月）の開催を予定）

2) ミュージアムセミナー

日 時：3月5日（日）14：00～15：00

会 場：熊本県立美術館本館 文化交流室

講 師：林田 龍太（当館学芸員）

演 題：「エビハラがいた時代」前史

参加者数：27人

3) 子ども美術館×くまモン夢学校

日 時：3月19日（土）10：00～16：00

（当初は3月6日（土）に開催予定であったが、まん延防止等重点措置期間再延長のため、開催を延期）

会 場：熊本県立美術館本館 文化交流室・第1展示室

テ ー マ：「段ボールで熊本城を作ろう！」

講 師：林田龍太・福田友子（当館学芸員）

主 催：一般社団法人 FOR KUMAMOTO PROJECT

協 力：サクラパックス株式会社、崇城大学芸術学部

参加者数：21人（7家族）

4) 学芸員によるギャラリー・トーク

日 時：3月12日（土）、3月26日（土）14:00～（30分程度）

（当初は2月26日（土）にも予定していたが、開催中止）

会 場：熊本県立美術館本館 第1展示室

■開催実績

総来観者数：2,907名／有料来館者数：1,665名

図録販売冊数：155冊

■実績概要

「エビハラがいた時代」展は、当初の予定通り令和4年（2022年）2月25日に開会した。新型コロナウイルスの感染再拡大により、まん延防止等重点措置が1月21日に適用され、さらに2月13日に延長される中での開幕であった。開会式への参加者は、主催者や協賛者の他、親族や教え子のみ限定せざるを得なかった。

本展は、画家・海老原喜之助の戦後熊本での活動を辿るものとして企画した。この地での海老原を語る上で、彼の活動を支えた熊本の人々の存在は不可欠である。だが多くの場合、美術展の主役は画家であり、鑑賞者をはじめとする一般の人々に焦点が合わせられることは、ほぼない。そこで本展では、海老原喜之助という画家を、熊本の人々の視点から捉え直す構成とした。また作品は制作順ではなく、熊本の人々が目にした順に展示。さらには地元紙に掲載された海老原関係記事、報道映像、それに本人による講義の音源といった資料類の展示を通して、熊本の人々が海老原喜之助という画家をいかに受容し、理解していったかを再現した。とりわけ作品に関しては、貴財団の御助成により、新潟や仙台などの遠方からも代表作を借用・輸送することができた。

来館者の反応は好評であり、SNSでは「テーマも明確、海老原絵画の魅力が伝わるし、関連作も良いもの揃い。熊本の土地や人々との関わりへの焦点の当て方も印象に残る。館／学芸員の方の渾身の展覧会では」、「今回のような展示こそ、熊本県の美術館としての役割の最たるもの、使命だと心底思いました」などの声が寄せられた。

来観者数は2,907名と、当初見込の半分以下にとどまった。かかる結果は、開催時期が冬であったことに加え、まん延防止重点措置の適用再延長（～3月21日）が作用していると推測される。このことは、2014年夏に開催した同種の展覧会「画家たちの上京物語」の来館者数が、約8,400名と倍以上であったことから裏付けることができよう。あるいは、会期が30日間と短かったことも関係しているかもしれない。

数字の上では残念な結果となったが、貴財団の御助成により充実した図録を刊行できたことは、本展の大きな成果の一つと言える。図録には作品・資料の図版に加え、海老原喜之助が地元紙に記したエッセイ、講演録、それに本人が出演したラジオ番組を文字化し掲載。その他関係者へのインタビュー、文献目録、年譜などを可能な限り詰め込み、資料性を高めた。熊本での海老原の事績や、地域と画家との結びつきを長く語り継いでもらうためである。結果として有料入場者に対する図録の購入率は9.3%と、当館としては高い割合となった

（通常では6%程度）。来観者数のみでは測ることのできない、展覧会の内容に対する満足度を物語るデータと言えるだろう。

エビハラがいた時代展 収支決算書

※実行員会構成員の承諾のうえ、令和4年(2022年)1月17日に予算書を修正・変更。

【収入の部】

科目	予算額(A)	収入額(B)	差額(B-A)	説明	
1 観覧料	¥ 3,212,266	¥ 1,699,020	¥ -1,513,246	観覧料	¥ 1,699,020
2 負担金	¥ 9,000,000	¥ 9,000,000	¥ -	熊本日日新聞社負担金	¥ 2,000,000
				RKK熊本放送員負担金	¥ 2,000,000
				熊本県立美術館負担金	¥ 5,000,000
3 協賛金	¥ 2,300,000	¥ 2,300,000	¥ -	肥後銀行特別協賛金	¥ 1,000,000
				KMバイオロジクス特別協賛金	¥ 1,000,000
				金剛グループ協賛金	¥ 300,000
4 助成金	¥ 1,200,000	¥ 3,674,000	¥ 2,474,000	花王芸術・科学財団助成金	¥ 900,000
				熊本放送文化振興財団助成金	¥ 300,000
				日本芸術文化振興会助成金※	¥ 2,474,000
5 雑収入	¥ 556,920	¥ 375,014	¥ -181,906	図録売上	¥ 372,000
				物販関係収入	¥ 2,960
				銀行利息等	¥ 54
計	¥ 16,269,186	¥ 17,048,034	¥ 778,848		¥ 17,048,034

※日本芸術文化振興会による助成金の額は展覧会終了後の令和4年(2022年)4月22日に確定した。

【支出の部】

科目	予算額(A)	支出額(B)	差額(A-B)	説明	
1 賃金	¥ 1,553,248	¥ 987,676	¥ 565,572	臨時雇用職員賃金	¥ 975,921
				労働保険(労災保険、雇用保険)	¥ 11,755
2 報償費	¥ 145,000	¥ 73,000	¥ 72,000	出品謝金	¥ 73,000
3 旅費	¥ 750,000	¥ 620,632	¥ 129,368	作品集荷・返却旅費	¥ 620,632
4 食糧費	¥ 77,000	¥ 76,325	¥ 675	出品者手土産代	¥ 76,325
5 一般需用費	¥ 281,140	¥ 138,868	¥ 142,272	ゴム印	¥ 4,400
				消耗品	¥ 127,468
				開会式案内状印刷費	¥ 7,000
6 一般役務費	¥ 6,542,840	¥ 6,647,050	¥ -104,210	ポスター等送付	¥ 183,326
				切手・印紙代	¥ 26,820
				開会式案内状郵送費	¥ 39,816
				会場設営・借用・展示・撤収・返却	¥ 6,397,088
7 委託料	¥ 6,277,000	¥ 5,844,500	¥ 432,500	ポスター・チラシ・チケット作成	¥ 401,500
				JR駅貼りポスター作成	¥ 58,000
				図録掲載用インタビュー編集費	¥ 100,000
				展覧会図録印刷費	¥ 2,035,000
				作品展示調整費	¥ 100,000
				熊本日日新聞社デザイン・広告制作委託	¥ 2,050,000
				RKK CM制作委託	¥ 1,100,000
8 使用料 及び賃借料	¥ 552,000	¥ 415,500	¥ 136,500	出品作品掲載著作権料	¥ 63,500
				JR駅貼りポスター掲出費	¥ 352,000
9 予備費	¥ 90,958	¥ 27,170	¥ 63,788	振り込み手数料等	¥ 27,170
計	¥ 16,269,186	¥ 14,830,721	¥ 1,438,465		¥ 14,830,721

(収入合計) ¥ 17,048,034 —(支出合計) ¥ 14,830,721 = (事業収益) ¥ 2,217,313

熊本が愛した、異邦人^{アーティスト}

エビハラがいた時代

海老原美術研究所 設立70周年記念 1945 >>> 1976

EBIHARA : L'ÉTRANGER À KUMAMOTO




2022年
2月25日[Fri] — 3月30日[Wed]
熊本県立美術館 [本館] 第1展示室

■開館時間／9:30～17:15(入館は16:45まで)
■休館日／3月7日(月)、14日(月)、22日(火)、28日(月) ※2月28日(月)は「障がいのある方々のための鑑賞デー」として開館。

海老原言之助《燃える》(部分) 1957年 新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵

主催：熊本県立美術館／熊本県教育委員会、熊本日日新聞社、RKK熊本放送
協賛：金剛グループ

助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団  芸術文化振興基金助成事業
一般財団法人 熊本放送文化振興財団

協力：熊本ラーメン鼎亭(有限会社鼎亭)、九州旅客鉄道株式会社熊本支社
後援：熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、
熊本県市町村教育委員会連絡協議会、熊本県図画工作・美術教育研究会、
熊本県高等学校教育研究会美術・工芸部会、熊本県高等学校文化連盟、
熊本県博物館連絡協議会、NHK熊本放送局、J:COM、エフエム熊本、FM791

特別協賛： 肥後銀行  KMバイオロジクス株式会社



展覧会HP

海老原美術研究所設立70周年記念
エビハラがいた時代：1945-1976
 出品目録

令和4年（2022年）2月25日（金）～3月30日（水）
 熊本県立美術館本館 第一展示室

※出品番号及びリストの順番と展示の順番は、必ずしも一致しません。ご了承ください。

No.	作者名	作品名	制作年	所蔵先
序章：エビハラという、画家。 1904-1970				
特別 出品	藤田嗣治	海老原喜之助像	1936年	個人蔵
0-01	美術工芸会 刊	海老原喜之助作品絵葉書	1924～1942年	熊本県立美術館蔵
0-02	朝日新聞社 刊	『アサヒグラフ』第24巻11号	1935年	熊本県立美術館蔵
第一章：画家が、くる。 1945-1955				
1-01	海老原喜之助	人吉風景	1945～1950年頃	陽山美術館蔵
1-02	海老原喜之助	デッサン	制作年不詳	熊本県立美術館蔵
■第一章-1：焼け跡の絵画				
1-03		熊本大空襲の焼け跡	1945年	個人蔵
1-04	宮崎精一	芸人（敗戦）	1946年	熊本県立美術館蔵
1-05	坂本善三	静と静物	1950年	坂本善三美術館蔵
1-06	境野一之	聖なる壁	1952年	熊本県立美術館蔵
1-07	田代順七	初秋の庭	1947年	熊本市現代美術館蔵
1-08	坂本繁二郎	煉瓦と瓦	1944～1950年頃	ウッドワン美術館蔵
1-09	アンドレ・ドラン	浴女	1925年	埼玉県近代美術館蔵
1-10	海老原喜之助	騎馬	1950年	個人蔵
■第一章-2：周縁からの復帰				
1-11	海老原喜之助	殉教者	1951年	東京国立近代美術館蔵
1-12	海老原美術研究所	海老原美術研究所会員之証	1951年	個人蔵
1-13	海老原喜之助	友よさらば	1951年	神奈川県立近代美術館蔵
1-14	江上龍介	ワルブルギスの夜	1946～1948年頃	個人蔵
1-15	平林武良	同居者	1950年代	有限会社黒亭蔵
1-16	千賀友子	風	1950年代	熊本県立美術館蔵
1-17	乙葉統	静物	1948年	個人蔵
1-18	春口光義	スケッチ	1951～1952年頃	個人蔵
1-19	春口光義	瓦と鋸力とココリ	1951年	熊本市現代美術館蔵
1-20	山口輝也	布のデッサン（ギリシア）	制作年不詳	個人蔵
1-21	山口輝也	布のデッサン（ゴシック）	制作年不詳	個人蔵
1-22	海老原喜之助	ボン・サマルタン	1952年	鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵

■第一章-3：地域とともに

1-23	海老原喜之助	雲の切れ間	1951年	熊本県立美術館蔵
1-24	海老原喜之助	夏の雲	1954年	NHK熊本放送局蔵
1-25	海老原喜之助	伊豆富人先生之像	1956年	伊豆英一蔵
1-26	日本談義社 刊	『日本談義』	1950～1968年	くまもと文学・歴史館蔵
1-27	熊本市警察局／熊本市警察本部 刊	『森都のまもり』	1951～1954年	熊本県立美術館蔵
1-28	海老原喜之助	28年水害スケッチ	1953年	熊本県立美術館蔵
1-29	熊本市教育委員会 編 ／熊本図書 刊	『水・泥・熊本 1953』	1953年	熊本県立美術館蔵
1-30	海老原喜之助	色紙	制作年不詳	個人蔵
1-31	熊本日日新聞社 刊	『海老原喜之助スケッチ集』	1956年	熊本県立美術館蔵
1-32	海老原喜之助	一週一景 鉄骨の東京	1954年10月17日掲載	熊本県立美術館蔵
1-33	海老原喜之助	一週一景 回想の人吉…球磨川の①	1954年12月12日掲載	熊本県立美術館蔵
1-34	海老原喜之助	一週一景 巨大な鉄の壁 長崎(その二)	1955年6月12日掲載	熊本県立美術館蔵
1-35	海老原喜之助	一週一景 桜島の噴火	1955年10月30日掲載	熊本県立美術館蔵
1-36		「熊本市街を望む」 (絵葉書集『熊本名所』より)	1955年頃	熊本県立美術館蔵
1-37		「熊本銀座 上通りの街観」 (絵葉書集『熊本名所』より)	1955年頃	熊本県立美術館蔵
1-38		「諸官街達ち並ぶ市役所附近の所見」 (絵葉書集『熊本名所』より)	1955年頃	熊本県立美術館蔵
1-39		「熊本市街中央部の展望」 (絵葉書集『熊本名勝』より)	1955年頃	熊本県立美術館蔵

第二章：画家が、いる。1954-1960

■第二章-1：最初の回顧

2-01	海老原喜之助	船を造る人	1954年	北九州市立美術館蔵
2-02	熊本日日新聞社	『海老原喜之助自選回顧展』リーフレット	1954年	熊本県立美術館蔵
2-03	海老原喜之助	ポワソニエール	1934年	宮城県美術館蔵
2-04	海老原喜之助	読む	1936年	陽山美術館蔵
2-05	海老原喜之助	練馬	1936年	三宅美術館蔵
2-06	海老原喜之助	芸	1936年	熊本県立美術館蔵
2-07	海老原喜之助	蹄	1936年	目黒区美術館蔵
2-08	海老原喜之助	青年	1941年	北九州市立美術館蔵
2-09	海老原喜之助	かぜ	1954年	静岡県立美術館蔵
2-10	海老原喜之助	本を焼く人	1954年	鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵

■第二章-2：燃える

2-11	海老原喜之助	靴屋	1955年	北九州市立美術館
2-12	海老原喜之助	燃える	1957年	新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
2-13	海老原喜之助	蝶	1959年	BSN新潟放送蔵 (新潟市美術館寄託)

■第二章-3：指導者として

2-14		海老原美術研究所の机	1950年代	個人蔵
2-15	山口輝也	びん	1958年	熊本県立美術館蔵
2-16	春口光義	面・鏝・花	1957年	熊本県立美術館蔵
2-17	藏本朝美	水車	1958年	熊本市現代美術館蔵
2-18	板井榮雄	でんえん（田園）	1959年	熊本県立美術館蔵
2-19	芹川光行	行動	1960年	島田美術館蔵
2-20	宮崎静夫	厨房静物	1959年	熊本県立美術館蔵
2-21	江田豊	供物	1957年	熊本県立美術館蔵
2-22	淵田安子	蝶と皿と魚	1960年	熊本市現代美術館蔵

第三章：画家が、ゆく。1960-1970

3-01	海老原喜之助	春眠	1959年	九州旅客鉄道株式会社熊本支社蔵
3-02	海老原喜之助 図案	浴衣	1960年頃	個人蔵

■第三章-1：二度目の回顧

3-03	海老原喜之助	姉妹ねむる	1927年	東京国立近代美術館蔵
3-04	海老原喜之助	窓（カンヌ）	1927年	北九州市立美術館
3-05	海老原喜之助	貨物船とヨット	1929年	鹿児島市立美術館
3-06	海老原喜之助	群鳥	1931年	名古屋市美術館蔵
3-07	海老原喜之助	雪山と樵	1930年	愛知県美術館蔵
3-08	海老原喜之助	スケート	1930年	三宅美術館蔵
3-09	海老原喜之助	雪景色（狩り）	1930年頃	熊本県立美術館蔵
3-10	海老原喜之助	曲馬	1935年	熊本県立美術館蔵
3-11	海老原喜之助	走馬燈	1963年	福岡市美術館蔵
3-12	海老原喜之助	雨の日	1963年	東京国立近代美術館蔵

■第三章-2：原風景への旅

3-13	藤田嗣治	オールドネル画室	1940年	熊本県立美術館蔵
3-14	アルベルト・ジャコメッティ	裸婦	1960年頃	熊本県立美術館蔵
3-15	海老原喜之助	夏の夕べ	1964年	鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵
3-16	海老原喜之助	男の顔	1965年	三宅美術館蔵
3-17	海老原喜之助	花ぬす人	1965年	福岡市美術館蔵
3-18	海老原喜之助	花を捧ぐ	1968年	三宅美術館蔵
3-19	海老原喜之助	ブルターニュの寺院	1969年	陽山美術館蔵
3-20	海老原喜之助	サーカス	1970年	鹿児島市立美術館蔵
3-21	海老原喜之助	白い鳥・黒い鳥	1970年	福岡市美術館蔵

■第三章-3：若者たちの行方

3-22	山口輝也	テーブル	1962年	個人蔵
3-23	藏本朝美	假像	1963年	神奈川県立近代美術館蔵
3-24	矢田道也	形口	1963年	熊本市現代美術館蔵
3-25	板井榮雄	腐ってゆく果実の列（I）	1964年	熊本県立美術館蔵
3-26	宮崎静夫	ドラム缶・A	1961年	坂本善三美術館蔵
3-27	春口光義渡欧後援会準備委員会	「渡欧のための 春口光義油絵展」リーフレット	1962年	個人蔵
3-28	春口光義渡欧後援会	「春口光義君の海外留学に就てお願い」	1963年	個人蔵
3-29	春口光義	歴史の顔	1964年	個人蔵
3-30	芹川光行	x. y. z（座標）	1971～1972年	つなぎ美術館蔵
3-31	江田豊	未登録者	1963年	熊本県立美術館蔵
3-32	淵田安子	（題名不詳）	1970年頃	個人蔵
終章：エビハラが、いた。 1970-1976				
4-01	海老原喜之助	群馬出動	1961年	熊本県立美術館蔵

●展示作品の撮影について●



◀ 解説パネルの隣にこのマークがある作品は、撮影可能です。

ただし、以下の行為は禁止します。

- ・ストロボ・フラッシュを使用した撮影
- ・三脚等、観覧の妨げになる機材を使用した撮影
- ・刊行物等への無断使用

■撮影した画像は、私的利用のみ許可されています。

■不正利用により発生したいかなるトラブルについても、当館では一切の責任を負いません。

「エビハラがいた時代」 展会場写真





